

売り上げで、とくに年金世代に向けた「ちりめん山椒」は約20%増の人気だという。「今までならホテルでランチしていた主婦が家でお昼を食べ、職場に弁当を持っていく〇しも増えている。節約志向が強まっているのでしょう」(同社広報)

確かに、東急ハンズ(2丁目)では弁当箱がコンスタントに売れている。

晴海通りと昭和通りがまじわる三原橋近くの「びっくり寿司」銀座店(5丁目)。24日には、本社が民事再生法の適用を申請した。店の関係者によると、終電前の3軒目に立ち寄る客が多かったが、人の波がぐっと引いているという。

「例産」は翌日に知らされ  
ました。でも、譲渡先は決まっていたからがんばれ、と。不安はあるけど、やるしかないです……」  
30日の曇りがり、銀ブラ中のマダム(56)に中央通りで声をかけた。前髪は紫のメッシュ、左手には大きな赤いルビーの指輪。ちょうど友人とイタリアンを食べた後だという。

「へそくりは、クローゼットのなかばんの中に入れてます。十数万円くらいかしら。最近、お友達同士の間ではタンス貯金の話が出るわね。何があるかわからない時代だからって。でも、先月も家の近くで空き巣があつたね。まとまったお金を手元に置くのは、ちよつと怖いわよねえ」

そんな心理を説んでか、隠し金庫を埋め込んだオリジナル収納が人気だ。その名も「タンス預金たんず」。取付費は5万円から。埼玉県越谷市のオーター家具店が売り出し、リーマン・ショック後の9月中旬に一挙に10組の注文が入った。テレビで取り上げられると、問い合わせが殺到した。

「特注で金庫を埋め込みたののだが……」  
「とにかく、すぐにでもほしい」  
枝久保剛店長は切実な声の多さに驚いた。

## 有名クラブビル 価格50億の衝撃

金融危機で銀行が貸し渋れば、運転資金が足りなくなつて、首が回らなくなる。中小企業経営者などが自己防衛のために、手元に現金を置くというのだろうか。京橋郵便局裏にある「銀座メモリアルホール」のこのころ、棺のランクや香典返しの単価を下げる傾向があ



ビル開発中。更地が目立つ

る。いまや全国の生活保護世帯は100万を超えて過去最多。身内だけの「家族葬」ところか、葬式をせず病院などから火葬場に直行する「直葬」も増えている。

「ドライアイス、花、霊柩車、僧侶立ち会いの費用を含めて20万〜30万円。安さを売りにする専門業者も出てきています」(葬儀事情に詳しい出版社社長・清水祐孝氏)  
不動産も下落の一途だ。

昨春秋に買却された数寄屋橋交差点の銀座東芝ビルは、土地1坪あたり1億4千万円。業者によると、この1年で取引価格は2、3割下がっている。

その象徴が、8丁目の「ウオータータワー」だ。松本清張原作で、米倉涼子が主演したドラマ「黒草の手帖」のモデルとなったママのクラブなど、一流店がひしめく。この銀座有数のビルを外資系ファンド会社が手放し、8月に、マブチモーター創業者の長男の会社を買収した。

「価格は当初の売値の半分近い50億とも言われ、業界に衝撃が走りました。レバレッジで高騰した銀座の不動産バブルは見事にはじけたのです」(不動産関係者)  
そのビルも1階のテナントは空いたまま、名物の噴水も止まっている。  
「ひとりで月に2千万円を売り上げる伝説のママも『2、3カ月休養する』と言った姿を消してしまつたようです」(関係者)



一方、女性にもメリットがある。

ある50代の運転手はあきらめ顔だ。

隣では、大学院卒の大村賢哉さん(35)が靴墨に手を